

小学校英語お悩み相談室

| 第2回 |

2020年度から、教科化される小学校での英語教育。初めてのことにとまどう先生も多いと思います。先生方のそのお悩みを、英語教育のスペシャリストである小泉 仁先生が受け止めます。



QUESTION.1

子どもたちの英語の力に差がありすぎるのですが、指導で心がけるポイントを教えてください。

A 英語が得意でも苦手でも互いに活躍する場をつくらう

4年生くらいになると、子どもたちは、自分たちの間に英語力の差があることを意識し始めるようです。でも、その「差」について、教員は気にしすぎることはないというのが、私の考えです。

英語が得意な子には、モデル役を務めてもらい、クラスをリードする役割を与えてはいかがでしょうか。例えば、クラスメートが上手く発音できなかったときに、お手本になってもらうのです。中学校では、英語が得意な生徒と苦手な生徒を、あえてペアにして練習させる先生もいるのです。

いっぽうで、深く考える子ども、豊かな発想をする子どもがいます。例えば、“What’s the weather today?”と聞くと、たいいていは、“Cloudy.” “Sunny.”などと答えますが、“Cloudy.”と答えた後、「先生、『あとで雨になる』って言いたいんですけど」と質問してくる子ども

がいます。英語が得意でない子どもからそういう発想が出てきたらチャンスです。「『あと』ってどう言う？」とクラスに質問を向ければ、英語が得意な子の出番が作れます。また、得意分野で活躍の場を与えるのもいいと思います。絵を描くのが得意なら、英語の紙芝居を作る活動で絵を描いてもらう。**子どもたちのいろいろな面を知っている小学校の先生であれば、他の教科と同様、子どもたちを上手に導けるはず**です。

時に、英語が得意な子どもは、多くの単語を知っていることを自慢したくなるものですが、相手がわかるように話すことも大事だということを教えてください。学習指導要領でも、「他者に配慮しながら」コミュニケーションを図ることを目標に掲げています。友達のことを理解する力、相手がわかる言葉で話す力、ジェスチャーなど、言語以外の伝達方法を駆使する力——こういったものも含めて「言葉の力」なのだということを、ぜひ子どもたちに伝えていただきたいですね。

小泉 仁 こいずみ・まさし
東京家政大学教授

元・文部科学省初等中等教育局教科書調査官。
日本児童英語教育学会(JASTEC)会長。
一般財団法人語学教育研究所理事。
中学校英語教科書『COLUMBUS 21 ENGLISH COURSE』(光村図書)の編集委員を務める。

どんなお悩みにもお答えします



QUESTION.2

フォニックスについてあまりよく知りません。どのようなことを指導したらいいのでしょうか。

A 耳になじんだ語を子どもの目に触れさせよう

フォニックスは、英語の音と文字の関係を教える指導法。もともとは、英語圏の子どもたちに読み書きを教えるために開発されたものです。学習指導要領では、「発音と綴りを関連づけた指導」は中学校での指導事項とされていますから、小学校では、中学生になったときにスムーズにフォニックスが始められるよう、**英語の音と文字に慣れ親しむ工夫ができれば十分**だと思います。

外国語として英語を学ぶ日本の子どもたちにとって、まず大切なのは、音素をしっかりと認識すること。“cat”はc, a, tの文字がそれぞれ/k/, /æ/, /t/という三つの音素から成っているということを、さまざまな体験から意識の中に取り込むのです。

そのためには、音と文字の関係を意識させるような活動を取り入れていきましょう。例えば、onset(語頭音)あるいはrime(語尾音)

が同じ単語に着目します。“cat, bat, mat”と三つの単語を並べて、その共通性に気づかせる、あるいは、“bag”を加えて、仲間はずれを探すゲームもよいかもしれません。こうした単語を掲示板に貼り出すのも効果的です。「今週はcから始まる単語」など、テーマを決めて掲示するとよいですね。

ここで重要なポイントは、提示する単語は3～4文字程度の短い、耳になじんだものであること。カタカナ言葉として知っている単語もよいでしょう。単語と一緒にイラストを添えれば、子どもたちにも読めるはず。この「読めた!」という成功体験が大事なのです。フォニックス指導のために未習の単語を教え込むのは本末転倒です。

小学校では、教員が音と文字の関係を整理し、耳になじんだ語を子どもの目に触れさせることがまず必要です。子どもたちの読みたい気持ちを高めるように工夫し、彼らが英語を書き写したくなるまで待てたら、理想的です。